

2003年度卒業論文題目一覧表

浅 森 友 哉	ゲルマン神話のオーディン
井 戸 智佳子	時代を映す魅力的な広告 —「車」広告におけるアピール方法の時代性—
今 西 謙 治	Raum und Zeit in Goethes „Faust II“
今 西 友紀子	シンデレラ物語の系譜
上 村 真 耶	天使のことばは「詩的」であるか否か —ロシア・ フォルマリズムにおける詩語と天使のモノローグ—
内 やよい	ドイツの女性観の変遷 —原始時代から中世まで—
岡 崎 由 美	サンタクロースがもたらす「贈与」とは —サンタクロースの起源から考える—
岡 本 美 鈴	日本とドイツの“色”
萩 田 利 臣	共生するドイツと孤立する日本
古 賀 千 春	東西ドイツ統一後の外国人問題 —ドイツは移民国家となるのか—
小 段 玲 奈	ものづくりドイツのマイスター制度
小 林 佐和子	「コトバ」のチカラの可能性 —雑誌広告の巧みな広告表現を探る—
坂 口 純 子	娯楽・清潔の空間 —欧米風呂文化の原点—
塩 路 加 奈	目で読むグリムのメルヒェン —挿絵の変遷と受容—
塩 山 寛 子	掌編小説のカシュニッツ
杉 田 育 代	ブレヒトが目指した演劇
鈴 木 宏 胤	ドイツにおける持続可能性 —環境保護は経済を救うか—
田 中 敦 司	ドイツサッカーの歴史 —ドイツから読み解くサッカー—
辻 山 可奈子	ヨーロッパにおけるホテルサービス —ホスピタリティとサービスの日欧比較—

- 常 田 邦 彦 ゲーテ『ファスト第一部』の考察
都 出 章 太 グリム童話集について
—その中から見る暴力性や残虐性と現代社会—
- 東 條 祐 子 ドイツの犬と日本の犬 —人と犬のより良い関係—
中 島 知 子 『拾い子』に見るクライストの人間性
中 嶋 千 尋 感情ことばからみた男女の心理
—ゲーテの「親和力」を例にして—
- 中 野 学 Witzの日独比較研究
橋 本 恵 理 「楽」(がく) から「学」へ
—テキスト言語学の対象としての料理レシピ—
料理レシピの特徴と時代比較
- 幅 野 奈緒子 グリム童話『つぐみの髭の王様』について
林 田 明日加 『源氏物語』のドイツ語訳との比較 —有職故実・
和歌を通して、異文化理解について考える—
- 馬 場 千夏子 『朗読者』における戦争責任 —罪責論より—
菱 川 亜紀子 統一ドイツの心の壁とその背景
比 名 悠 子 エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』について
藤 原 弥 生 第三帝国下の民衆
槇 枝 杏 子 ドイツの飲料容器のリデュース・リユース
松 丸 源太郎 翻訳における慣用表現、比喩表現の分析
—川端康成の小説『山の音』に基づいて—
- 丸 山 玉 穂 映画『ラン ローラ ラン』における人物設定
—会話分析的観点から—
- 宮 地 望 美 ドイツと日本 —少子化と女性の結婚感—
村 岡 亜紀子 中世ドイツの古城 —12世紀から14世紀にかけて—
村 松 江 美 日本、ドイツにおける女らしさ
薬師神 藍 子 道祖神とMatronen Stein
山 岸 紗 織 19世紀末ウィーンの読書生活
山 本 有希子 中世ドイツと江戸期日本の比較による、縞模様の魅
力の研究
- 若 月 やよい 認知言語学的に見た映画『ラン・ローラ・ラン』
—典型的登場人物をめぐる—

小川 梨 絵	バウハウスにみるモダン
齋藤 公 輔	1989年革命の素地
竹森 禎一郎	ドイツ語と日本語における外来語の比較
多田 知 司	ニーベルンゲンの歌 ―クリエムヒルトとクリエム ヒルトを取り巻く騎士について―
中井 敏 寛	ドイツの国際協力
中川 佳 子	ドイツに学ぶ、オーストラリアの環境問題解決法
中島 知 香	日本人と欧米人のコミュニケーション・ギャップ
藪田 朋	ドイツにおけるマンガ翻訳について ―ASTROBOYはどこまで鉄腕アトムたり得るの か―
山田 詩 織	Die Huren als kulturelles Phänomen
横山 広 明	イラク問題にみる米欧（独）関係の変容、ドイツの 視点から
北脇 宏 一	„Die Leiden des jungen Werthers“ における Goethe の思想
平山 郁 生	『グリム童話』と子ども
森 かおり	Jugendsprache. Ihre strukturellen und funktionellen Merkmale ― auf der Grundlage von Umfragen unter deutschsprachigen Studenten―
塩原 晶 子	ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』をユング心理学的に 見て
西野 由紀江	戦略として用いられる待遇表現の効果 ―ブレヒト の戯曲『三文オペラ』の台詞を資料として―
菅谷 和 世	ブレンターノとハイネのローレライにおける女性像 について
藤井 智恵美	ゲオルク・ビューヒナー『ヴォイツェク』 ―市民階級の世界と貧困者階級の世界について―
藤田 洋 平	日本及びドイツの歴史教科書における戦争責任：そ の歴史哲学的背景